

松山東雲女子大学 松山東雲短期大学

2018年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)シンポジウムII

地域協働教育の 「これから」を考える

参加費無料

2019 **2/12** (火) 14:30開場
15:00-17:30

会場 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 本館北3階 本-3-11教室
(愛媛県松山市桑原3丁目2-1)

定員 120名 事前申込不要
先着順

対象 学生から社会人まで興味のある方は
お気軽にご参加ください。

地域協働教育での実践で学生たちが学び得たことを
今後活かしていくために、どのように支援すれば良いか。
そして、社会人基礎力養成にどのように繋げていくのか。
講演やトークセッションを通して今後の展望について
考えます。

第1部 基調講演

地方創生に向けた 地域協働教育について考える

受田 浩之 氏 高知大学 副学長 次世代地域創造センター長

地方創生を担う人材(ローカル・イノベーター)には強い「当事者意識」と高い「専門性」が要求されます。本講演では、その育成を担う地域協働教育として、高知大学で展開している学生及び社会人を対象とした具体的なプログラムを紹介すると共に、その効果を高めていくために今後強化していくべき「交流の拠点」機能について考えていきます。



第2部 トークセッション

しののめ地域協働教育の 「これから」を考える

第1部を受けて、地方創生に繋がる教育において東雲の果たすべき役割は何か。
学生が「人として育つ」ために地域と大学の協働の方向性を探ります。

〈シンポジスト〉 **受田 浩之 氏** (高知大学 副学長 次世代地域創造センター長)
仙波 英徳 氏 (NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 事務局長)
塩崎 千枝子 氏 (松山東雲女子大学 松山東雲短期大学 学長)

〈コーディネーター〉 **善本 裕子 氏** (松山東雲女子大学 副学長)



仙波 英徳 氏



開催目的

2018年10月25日に開催された「シンポジウムⅠ」と今回の「シンポジウムⅡ」を通して、地域との連携等を活用した松山東雲女子大学・松山東雲短期大学での実践的な学びを通じた社会人基礎力養成の必要性を再確認し、地域協働教育の方向性について探ることを目的としています。

プログラム

総司会／松山東雲女子大学 教授 西村 浩子

15:00 開会挨拶／松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 学長 塩崎 千枝子

15:05 第1部 開会

15:10 **基調講演** **地方創生に向けた地域協働教育について考える**
高知大学 副学長 次世代未来創造センター長 受田 浩之 氏

16:10 休憩

16:20 第2部 開会／松山東雲女子大学・松山東雲短期大学COC+事業シンポジウムⅠの概要説明

16:30 **トークセッション** **しのめ地域協働教育の「これから」を考える**
シンポジスト：受田 浩之 氏／仙波 英徳 氏／塩崎 千枝子
コーディネーター：善本 裕子

17:25 閉会挨拶／松山東雲女子大学 副学長 善本 裕子

講師・シンポジスト



受田 浩之 氏

高知大学 副学長(地域連携・広報担当)
次世代地域創造センター長
地域協働学部 教授

北九州市生まれ。九州大学(農学博士)。現在、高知市総合計画審議会 委員長、高知広域連携中枢都市圏ビジョン策定懇談会 委員長、高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員長、高知県産業振興計画フォローアップ委員会 委員長、内閣府消費者委員会 委員、内閣府地方創生力レッシュ推進会議 委員、高知カツオ県民会議 会長代理 等を務める。



仙波 英徳 氏

NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 事務局長

平成18年設立の「NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構」事務局長として「かわりをチカラに つながりをカタチに。」を合言葉に、地域で子どもたちの自主的なチャレンジ活動を支援している。「久米ふれあい食堂」「地域教育実践交流集会」等、子どもを中心に据えた実践で、社会教育と学校教育の連携・協働の仕組みづくりに挑戦している。



塩崎 千枝子

松山東雲女子大学
松山東雲短期大学 学長

山梨県生まれ。東京大学教養学科、ハーバード大学教育学大学院修士課程卒。松山東雲短期大学、同女子大学に勤務。女子大学人文学部人間文化学科長、学長代行、人文科学部心理子ども学科長、学園理事・評議員などを務める。2016年～2019年3月松山東雲女子大学・短期大学学長。専門は生涯教育、社会教育で女性と地域子育てを中心テーマに教育・研究・実践に取り組む。

コーディネーター



善本 裕子

松山東雲女子大学
副学長

神戸市生まれ。法政大学大学院、社会学専攻。専門は「家族社会学」「女性学」で、家族観や子ども観の歴史的形成やその変容をテーマとしている。久万高原町との連携授業である「PBL研修」や学生によるオレンジリボン運動の実践など、学びを体験につなぎ、体験から学ぶ教育実践を模索中。

地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)とは…

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

事前申込は不要です。お席は120席ほど準備しております。

先着順となっておりますので、お早めにお越しください。

お車でのご来場も可能ですが、駐車スペースには限りがあります。できるだけ公共交通機関でお越しください。

現在、耐震工事中のため、門の出入りや構内の通行には十分にお気を付けください。

お問い合わせ先

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)事務局 〈担当:藤村〉

TEL:089-931-6211 FAX:089-933-5559 Email:fuji17@shinonome.ac.jp

